

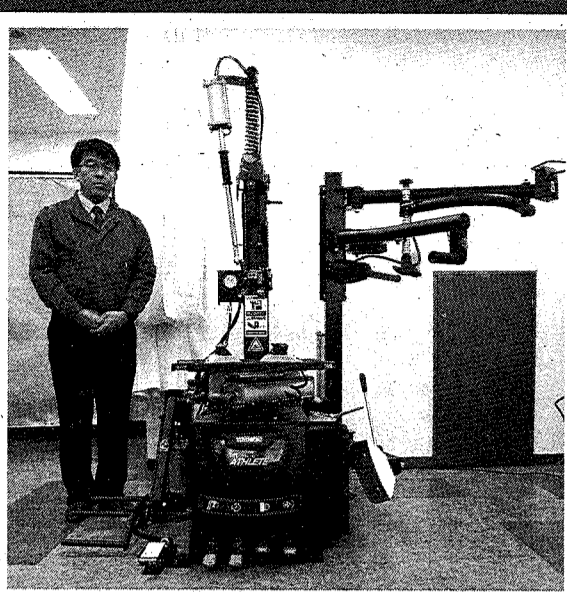
整備機器

新商品

東洋精器工業(株)

乗用車用タイヤチェンジャー

「PIT アスリート-Ⅱ改」



タイヤ整備の現場で、今、強く求められているテーマが「省力化・軽労化」その背景として、タイヤ整備を担当する作業スタッフ不足が深刻化していることが挙げられる。

足廻りサービスマシンの専門サプライヤー、東洋精器工業(株)(兵庫県宝塚市、阿瀬正浩社長)が意欲的に取り組んでいるのがまさに「省力化・軽労化」だ。太田正彦常務取締役は本紙の取材で「少人数で仕事を回せるよう軽労化・省力化を実現し、

より効率化が可能な機器を提供すべく、今後10年間を見据えた製品のラインアップ構想に着手した」と語っている。

その第一弾として上市したのが、乗用車用タイヤチェンジャー「PIT ATHLETE」(ピット・アスリート)のマイナーチェンジ仕様だ。2019年秋から本格展開を開始した。販売企画部長長製品・技術部門リーダーの小出哲裕さん(写真)が、新製品の解説と実演デモを行ってくれた。

「PIT ATHLETE」は、同社タイヤチェンジャーのスタンダードモデル。精悍さの漂うマットブラックのカラリングが個性的で、コストパフォーマンスに優れた人気機種だ。市場に投入し3年ほど経つが、今回のマイナーチェンジは機器本体ではなく周辺部分を行ったと、小出さんは言う。

そのマイナーチェンジで大きく進化したのは次の3点。高機能型サポートユニット「AL390」と側面装着型タイヤリフト「SR69」(ビードのめくり上げをサポートする「レバースユニットモデル」を採用したこと。従来は本体右側に取り付ける「AL320」と、本体左側に取り付ける「AL330」という2種のサポートユニットをオプション品として用意していた。従来は「AL320」(AL330)それぞれのプレスパートとディスクローラー「AL320」のプレスでも、3点押さえのほうで断然作業がしやす

能の働きで、難易度の高いランフラットタイヤや高剛性の超偏平タイヤの作業に対応するものだ。

それをマイナーチェンジでは、本体左側の「AL330」に代えて、本体右側に「AL390」を搭載すること。サポートユニット「SR69」を搭載すること。サポートユニットの配置を本体右側に集中させた。いわばサポートユニットのオーリンワン化である。

サポートユニット「AL390」の特徴は、ポジションの固定に際してエアロック機構を採用した点。押さえたい場所・高さを素早く位置合わせが可能。作業者の意思に對しタイムラグが生じないのが良い。

また、「AL390」にもプレス機能を付加させているので、従来のダブルプレスからトリプルプレスへと進化。小出さんは「組み込み作業に際してビードの浮き上がりが生じ、作業がしやすくなる。また、サポートユニットの収納・展開を考えると、右側に集中させたことで左側スペースをコンパクト化することが可能となった。

機器レイアウトの自由

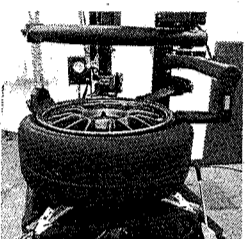
度が拡がり、限られた作業で力要ビットスペースの有効活用にも寄与する。

さらに、タイヤの脱着作業の中で労力が伴うビードのめくり上げにおいても、同社の「レバースユニットモデル」の組合せ仕様が同社の一押し。カスタマイズすることで、「PIT ATHLETE」はさらなる進化を見せつけた。

「AL390」を本体右側に配置したこと、本体左側のスペースが空いた。そこに側面装着型タイヤリフト「SR69」を搭載することが可能となった。床上でビード落とし作業を行い、転がしてリフトに載せるだけ。ターンテーブルの高さに合わせタイヤを倒せば脱着作業の準備が整う。上昇・下降はペダルを踏み任意の高さで停止できる。リフト能力は70kg。

タイヤリフトの採用により、作業の大幅な省力化・軽労化を実現。しかも、サポートユニットを本体右側に集中させたことで、作業者の動線も少なくなった。この点も作業性の向上に貢献する。

また、サポートユニットの収納・展開を考えると、右側に集中させたことで左側スペースをコンパクト化することが可能となった。



新サポートユニットで3点押さえ実現

脱着作業で省力化・軽労化

(横野 正義)